

令和 6 年 9 月 17 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2022

課題番号：18H00999

研究課題名（和文）子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム運用検証とリスク介入戦略の構築

研究課題名（英文）Early Screening for Psychosis Risk in Children: Operational Validation of the System and Development of Risk Intervention Strategies

研究代表者

濱崎 由紀子 (Hamasaki, Yukiko)

京都女子大学・現代社会学部・教授

研究者番号：50328051

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 11,700,000円

研究成果の概要（和文）：研究代表者らが独自開発した子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システムCPSSを臨床運用して小児科および児童精神科外来患者の精神病リスク%を算出し、前向追跡調査によりアウトカムを検証してCPSSの予後予測能を確認した。その結果、CPSSの精神病発症予測能は従来の精神病リスク指標よりも高く、十分な予後予測能を持つことが確認された。また、CPSSは神経発達障害群と精神病リスク群との鑑別にも有用であることが明らかとなった。精神科への早期リファーを必要とする精神病リスク児童をスクリーニングする客観的補助診断法として、CPSSを小児科臨床に役立てることができるだろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義

精神病は一度発症すると欠陥症状を残し、慢性的な機能レベル低下に至る予後不良の疾患である。発症の前に早期リスク同定、予防的早期介入（これまで栄養補助、認知機能改善療法、運動療法、低用量薬物療法などが提唱されている）を行うことが個人のメンタルヘルスのみならず我が国のヒューマンキャピタルの観点からも重要である。CPSSが算出する精神病リスク情報を小児科と精神科で共有することにより、不適応リスク児童に対する円滑な医療フォローを実践することができ、さらに医療・教育・福祉の緊密な連携のもとにエビデンスに基づいた社会的支援を実現することが出来ると考える。

研究成果の概要（英文）：The CPSS, an early screening system for psychosis risk in children originally developed by the principal investigator, was clinically implemented to calculate the % risk of psychosis in pediatric and child psychiatric outpatients, and the prognostic power of the CPSS was confirmed through a prospective follow-up survey to verify outcomes. The results showed that the CPSS had a higher predictive power for psychosis than conventional psychosis risk indices and had adequate prognostic power. The CPSS was also found to be useful in differentiating neurodevelopmental disorders from psychosis risk groups. The CPSS must be useful in pediatric practice as an objective adjunctive diagnostic tool for screening children at risk for psychosis who require early referral to psychiatry.

研究分野：精神医学

キーワード：精神医学 子ども 精神病リスク スクリーニング 統合失調症スペクトラム障害 CPSS 予後予測 神経発達障害

1. 研究開始当初の背景

現代における価値の多様化やネット環境の急激な普及などの諸要素は、子どものメンタルヘルスに様々な影響を及ぼしている。その一つが若年層における精神病の非特異化と不全型の増加である。増加の一途をたどる社会的ひきこもりや不登校などの不適応遷延例の中にもこのような不全型が存在することは1990年代より精神医学領域で多く報告されている。顕在発症未然の精神病リスク群の子どもを早期同定し、ひきこもり解消など適応向上のために早期介入を行うことは我が国のヒューマンキャピタルの観点からも重要な課題である。しかしながら、これまで精神病リスク群早期同定臨床ツールは何れもその同定対象が思春期 - 成人に限られおり、子どものリスク群同定の方法は未だ開発されていない。生物学的なエンドフェノタイプマーカー研究においても児童臨床でのリスク群同定方法がないために指標の動態に関するエビデンスが検証、集積できない状態にある。また、精神病リスク群と神経発達障害群との鑑別も臨床上の重要な課題として残存している。

2. 研究の目的

研究代表者らは遡及的調査研究から統合失調症患者の児童期には既にサブクリニカルな行動・心理特性(ひきこもりや思考の問題、極端な攻撃性欠如など)のコンビネーション・パターンが存在することを明らかにしている¹⁾。この特性パターンをアルゴリズムに組み込んだ「子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム The Child Psychosis-risk Screening System (CPSS)」を開発した(濱崎,中山 2019、特許第 6466548 号)。当該研究では実際に CPSS を運用して小児科および児童精神科外来患者の精神病リスクを算出し、前向追跡調査によりアウトカムを検証して CPSS の診断能および予後予測能を確認することとした。また、リスク群の子どもに対して早期介入戦略を構築することを目的とした。

3. 研究の方法

大学病院および市中病院の小児科・精神科を受診する 6~18 歳の外来患者 500 人を対象に前向研究を行った。まず Child Behavior Checklist (CBCL6-18)、診療録臨床データ(性別、年齢、出生月、主訴、診断、虐待、いじめ、ひきこもり)を用いて対象を評価し、CBCL6-18 のデータから CPSS が精神病発症のリスクを算出した。神経発達障害、統合失調症スペクトラム障害(SSD)、うつ病性障害、不安障害、身体症状性障害、その他の 6 つの診断カテゴリーを定義し、各診断カテゴリーにおける CPSS リスクの分散を検証した。さらに、SSD と各神経発達障害群(自閉症スペクトラム障害(ASD)、注意欠如・多動性障害(ADHD)、その他)の CPSS リスクの分散を検証した。初回評価から 1 年後には、精神病(SSD)発症状況を確認した。ROC 解析および機械学習 GBDT により、上記臨床データおよび CPSS が 1 年後の精神病発症を予測する精度および変数重要度を算出した。

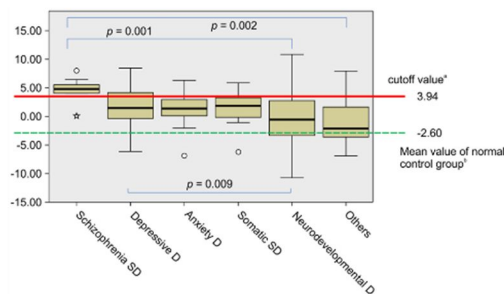
4. 研究成果

(1) CPSS の即時 SSD 診断能

分散分析の結果、診断カテゴリー間で CPSS リスク分散に有意差があり(Kruskal-Wallis test; $p < 0.001$)。特に SSD と神経発達障害の間で差が大きいことが判明した(Bonferroni's method; $p = 0.001$) (図 1)。SSD と各神経発達障害群(ASD、ADHD、その他)を比較すると、SSD と ASD、および SSD と ADHD との間にそれぞれ有意差を認めた(Bonferroni method; $p = 0.004$, $p < 0.001$) (図 2)。

また、CPSS の SSD 識別能を検証するため ROC 解析を行った。その結果、AUC は 0.853 (95%CI: 0.774-0.931) であり、CPSS は十分な SSD 診断能を持つことが示された(図 3)。また、ROC 曲線におけるカットオフ値は CPSS リスク: 98.1% (logit(p)=3.94) であり、感度は 0.909、特異度

図 1. CPSS リスクの分散分析 - 各診断カテゴリーの比較
Box-plots of the logit(p)*



は0.840であった。18.3%の患者(小児科12.5%、精神科29.1%)がカットオフ値以上のリスク群と同定された。横断的ロジスティック回帰分析の結果、統合失調症診断、虐待、冬生まれ、ひきこもりはリスク群と関連しており、それぞれのオッズ比は52.44、0.10、1.91、1.45であった。身体的主訴のある・なしはリスク群とは関連していなかった。

(2) CPSS の予後予測能

ROC 解析の結果、CPSS は十分な精神病発症予測能(1年後のSSD発症予測)を示した(AUC = 0.887, 95%CI:0.843-0.931)(図4)。カットオフ値はCPSS リスク: 97.02%で、感度92.9%、特異度79.3%であった。

(3) CPSS を含む全ての臨床データによる予後予測

CPSS リスク%を含むすべての臨床データを用いて機械学習GBDT分析を行い、精神病発症予測(1年後のSSD発症予測)における変数重要度を算出した。その結果、臨床データの中でCPSS リスク%の変数重要度が最も大きく、一方でこれまで児童の精神病リスク指標として汎用されることの多かったCBCL下位尺度V「思考の問題」は変数重要度が極めて低いことが明らかとなった。また同様のGBDT分析で、即時SSD診断モデルよりも1年後の予後予測モデルの予測精度のほうが高いことが分かった(表1, 2)

表1. GBDTによるVisit1データ Visit1の即時SSD診断モデル

F1	Recall	Precision	Specificity	Accuracy	BalancedAccuracy
0.20	0.3333	0.14285714	0.9707317	0.9615385	0.6520325

表2. GBDTによるVisitN-1データ VisitNの予後予測モデル

F1	Recall	Precision	Specificity	Accuracy	BalancedAccuracy
0.3750000	0.6000000	0.45454545	0.9753086	0.9718876	0.9043210

(4)結果のまとめ

CPSS のSSD発症予測能は従来の精神病リスク指標よりも高く、十分な予後予測能を持つことが確認された²⁾³⁾。また、CPSSは神経発達障害群と精神病リスク群との鑑別にも有用であることが明らかとなった³⁾。不定愁訴やひきこもり・不登校などのため長期間小児科でフォローされる不適応例のなかから精神科への早期リファーを必要とする精神病リスク児童をスクリーニングする客観的補助診断法として、CPSSを小児科臨床に役立てることができるだろう。精神病は一度発症すると欠陥症状を残し、慢性的な機能レベル低下に至る予後不良の疾患である。発症の前に早期リスク同定、予防的早期介入(これまで栄養補助、認知機能改善療法、運動療法、低用量薬物療法などが提唱されている)を行うことが個人のメンタルヘルスのみならず我が国のヒューマンキャピタルの観点からも重要である。CPSSが算出する精神病リスク情報を小児科と精神科で共有することにより、不適応リスク児童に対する円滑な医療フローを実践することができ、さらに医療・教育・福祉の緊密な連携のもとにエビデンスに基づいた社会的支援を実現することが出来ると考える。

<引用文献>

- 1) Hamasaki Y, Nakayama T, Hikida T. Childhood subclinical characteristics in schizophrenia-Toward the early screening for the risk of schizophrenia. *European Psychiatry*, 48: s377-378, 2018.
- 2) Hamasaki Y, Nakayama T, Hikida T, Murai T. Combined pattern of childhood psycho-behavioral characteristics in patients with schizophrenia: a retrospective study in Japan. *BMC Psychiatry*, volume 21(57) :1-9, 2021. <https://doi.org/10.1186/s12888-021-03049-w>
- 3) Hamasaki Y, Sakaue Y, Nakayama T, Michikoshi S, Hikida T. et al. Diagnostic specificity of the child psychosis-risk screening system with a focus on the differentiation of schizophrenia spectrum disorders and neurodevelopmental disorders. *Frontiers in Child and Adolescent Psychiatry*, 2:1230346, 2023.

図2. SSDと各神経発達障害群の比較

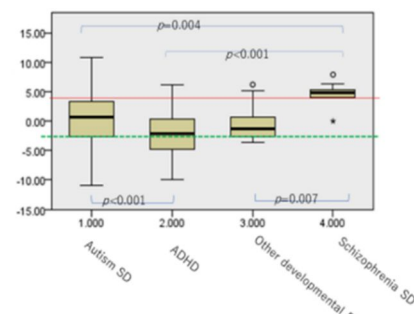


図3. ROC解析結果 - CPSSのSSD診断能

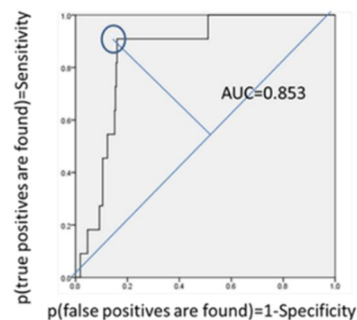
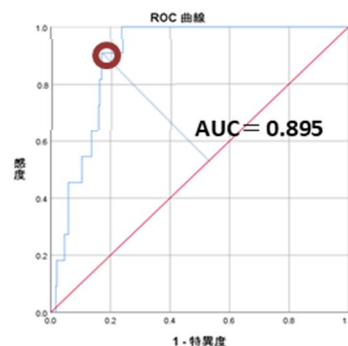


図4. ROC解析結果 - CPSSのSSD発症予測能



<https://doi.org/10.3389/fcha.2023.1230346>

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 10件 / うち国際共著 4件 / うちオープンアクセス 13件）

1. 著者名 濱崎由紀子	4. 巻 37
2. 論文標題 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）影響下における学生のメンタルヘルス問題	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 京都女子大学宗教・文化研究所 研究紀要	6. 最初と最後の頁 25-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 濱崎由紀子	4. 巻 26
2. 論文標題 フランスにおける周産期精神科医療の現在	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 京都女子大学現代社会研究	6. 最初と最後の頁 45-52
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hamasaki Yukiko, Sakaue Yuko, Matsuo Masahiro, Sanada Riku, Nakayama Takao, Michikoshi Shugo, Ueba Satoko, Kurimoto Naoki, Hikida Takatoshi, Murai Toshiya	4. 巻 2
2. 論文標題 Diagnostic specificity of the child psychosis-risk screening system with a focus on the differentiation of schizophrenia spectrum disorders and neurodevelopmental disorders	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Frontiers in Child and Adolescent Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3389/frcha.2023.1230346	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Y. Hamasaki, Y. Sakaue, M. Matsuo, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba and T. Hikida	4. 巻 66
2. 論文標題 Child psychosis-risk screening system diagnostic specificity: differentiation of schizophrenia spectrum and neurodevelopmental disorder	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Psychiatry	6. 最初と最後の頁 S279
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1192/j.eurpsy.2023.630	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Y. Hamasaki, G. Dorard, N. Tajan, N. Pionnie-Dax	4. 巻 66
2. 論文標題 Gender gap-related issues among mothers revealed by a comparative study of adolescent hikikomori between Japan and France	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 European Psychiatry	6. 最初と最後の頁 S279 ~ S280
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/j.eurpsy.2023.631	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Y. Hamasaki, G. Dorard, N. Tajan, T. Hikida, N. Pionnie-Dax	4. 巻 65
2. 論文標題 A Comparative Study of Adolescent Social Withdrawal (Hikikomori) in Japan and France	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Psychiatry	6. 最初と最後の頁 S233 ~ S233
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/j.eurpsy.2022.603	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Y. Hamasaki, M. Matsuo, Y. Sakaue, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba, N. Kurimoto, T. Hikida	4. 巻 65
2. 論文標題 Toward the clinical application of the Child Psychosis-Risk Screening System (CPSS)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 European Psychiatry	6. 最初と最後の頁 S225 ~ S225
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/j.eurpsy.2022.585	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamasaki Yukiko, Pionnie-Dax Nancy, Dorard Geraldine, Tajan Nicolas, Hikida Takatoshi	4. 巻 22
2. 論文標題 Preliminary study of the social withdrawal (hikikomori) spectrum in French adolescents: focusing on the differences in pathology and related factors compared with Japanese adolescents	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-022-04116-6	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Y. Hamasaki, M. Matsuo, Y. Sakaue, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba, N. Kurimoto, T. Hikida	4. 巻 64(S1)
2. 論文標題 Testing the clinical application of the Child Psychosis-Risk Screening System (CPSS)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Psychiatry	6. 最初と最後の頁 S638-S638
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/j.eurpsy.2021.1694	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Y. Hamasaki, T. Nakayama, S. Michikoshi, T. Hikida	4. 巻 64(S1)
2. 論文標題 Risk factors for severity of social withdrawal in adolescence: Understanding hikikomori as a spectrum	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 European Psychiatry	6. 最初と最後の頁 S632-S633
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1192/j.eurpsy.2021.1682	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamasaki Yukiko, Nakayama Takao, Hikida Takatoshi, Murai Toshiya	4. 巻 21
2. 論文標題 Combined pattern of childhood psycho-behavioral characteristics in patients with schizophrenia: a retrospective study in Japan	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Psychiatry	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12888-021-03049-w	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamasaki Yukiko, Pionnie-Dax Nancy, Dorard Geraldine, Tajan Nicolas, Hikida Takatoshi	4. 巻 52
2. 論文標題 Identifying Social Withdrawal (Hikikomori) Factors in Adolescents: Understanding the Hikikomori Spectrum	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Child Psychiatry & Human Development	6. 最初と最後の頁 808-817
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s10578-020-01064-8	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 Yukiko HAMASAKI, Takao NAKAYAMA, Takatoshi HIKIDA, Toshiya MURAI	4. 巻 12
2. 論文標題 The early screening for the risk of schizophrenia in childhood	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Early Intervention in Psychiatry	6. 最初と最後の頁 108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/eip.12724	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Hamasaki Y, Nakayama T, Hikida T.	4. 巻 48
2. 論文標題 Childhood subclinical characteristics in schizophrenia-Toward the early screening for the risk of schizophrenia.	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 European Psyschiatry	6. 最初と最後の頁 483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yukiko HAMASAKI, Takatoshi Hikida, Toshiya Murai	4. 巻 9
2. 論文標題 The combination pattern of the subclinical characteristics in schizophrenia childhood	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本統合失調症学会機関紙	6. 最初と最後の頁 133
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計34件 (うち招待講演 2件 / うち国際学会 12件)

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、中山貴夫、道越秀吾、疋田貴俊
2. 発表標題 子どもの精神病リスク早期スクリーニングと社会的支援ニーズの評価
3. 学会等名 第42回日本社会精神医学会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 Child Psychosis-risk Screening System の予後予測能の検証
3. 学会等名 第36回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸、上羽智子
2. 発表標題 Child Psychosis-risk Screening System (CPSS)の予後予測能 - 機械学習による検証
3. 学会等名 第64回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 CPSS (子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム) の予後予測能 - 機械学習による検証
3. 学会等名 第42回日本精神科診断学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱崎由紀子
2. 発表標題 思春期ひきこもりの心理行動特性についてー日仏比較研究から
3. 学会等名 第53回日本神経精神薬理学会年会 (招待講演)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yukiko Hamasaki, Yuko Sakaue, Masahiro Matsuo, Riku Sanada, Takao Nakayama, Shugo Michikoshi, Satoko Ueba, Takatoshi Hikida
2. 発表標題 Diagnostic specificity of child psychosis-risk screening system for differentiation of schizophrenia spectrum and neurodevelopmental disorders
3. 学会等名 IEPA's 14th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 Child Psychosis-risk Screening System (CPSS)の診断特異性 - 神経発達障害との鑑別に役立つ
3. 学会等名 第119回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Yukiko Hamasaki, Yuko Sakaue, Masahiro Matsuo, Riku Sanada, Takao Nakayama, Shugo Michikoshi, Satoko Ueba, Takatoshi Hikida
2. 発表標題 Differentiation between schizophrenia spectrum and neurodevelopmental disorders using the Child psychosis-risk screening system
3. 学会等名 ASCAPAP 2023 (The 11th Congress of The Asian Society for Child and Adolescent Psychiatry) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, Y. Sakaue, M. Matsuo, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba, T. Hikida
2. 発表標題 Child psychosis-risk screening system diagnostic specificity: differentiation of schizophrenia spectrum and neurodevelopmental disorders
3. 学会等名 EPA2023 (The 31st European Congress of Psychiatry Congress) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, G. Dorard, N. Tajan, N. Pionnie-Dax
2. 発表標題 Gender gap-related issues among mothers revealed by a comparative study of adolescent hikikomori between Japan and France
3. 学会等名 EPA2023 (The 31st European Congress of Psychiatry Congress) (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システムCPSSの診断特異性
3. 学会等名 第25回日本精神保健・予防学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸
2. 発表標題 小児科および児童精神科における精神病リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)の運用に向けて
3. 学会等名 第63回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱崎由紀子、阪上由子、松尾雅博、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 Child Psychosis-risk Screening System (CPSS)の臨床応用に向けて
3. 学会等名 第35回日本総合病院精神医学会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱崎由紀子、松尾雅博、阪上由子、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システムCPSSの有用性検証
3. 学会等名 第41回日本精神科診断学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Yukiko HAMASAKI
2. 発表標題 Psycho-behavioral characteristics of the Japanese and French Social Withdrawal (Hikikomori) in Adolescents
3. 学会等名 NEURO2022 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱崎由紀子、松尾雅博、阪上由子、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 児童を対象とした精神病発症リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)臨床運用に向けて
3. 学会等名 第118回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, G. Dorard, N. Tajan, T. Hikida, N. Pionnie-Dax
2. 発表標題 A Comparative Study of Adolescent Social Withdrawal (Hikikomori) in Japan and France
3. 学会等名 EPA 2022 (30th European Congress of Psychiatry) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, M. Matsuo, Y. Sakaue, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba, N. Kurimoto, T. Hikida
2. 発表標題 Toward the clinical application of the Child Psychosis-risk Screening System (CPSS)
3. 学会等名 EPA 2022 (30th European Congress of Psychiatry) (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 濱崎由紀子、松尾雅博、阪上由子、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、疋田貴俊
2. 発表標題 小児科での精神病発症リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)臨床運用に向けて
3. 学会等名 第16回日本統合失調症学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, M. Matsuo, Y. Sakaue, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba, N. Kurimoto, T. Hikida
2. 発表標題 Testing the clinical application of the Child Psychosis-Risk Screening System (CPSS)
3. 学会等名 EPA virtual 2021 (29th European Congress of Psychiatry) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 濱崎由紀子、松尾雅博、阪上由子、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、栗本直樹
2. 発表標題 精神病リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)が同定する児童リスク群の諸特性
3. 学会等名 日本総合病院精神医学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 濱崎由紀子
2. 発表標題 中学生におけるひきこもり重症化の要因 - 日仏比較研究から
3. 学会等名 第62回日本児童青年精神医学会総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 濱崎由紀子、松尾雅博、阪上由子、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、栗本直樹、疋田貴俊
2. 発表標題 子どもを対象とした精神病発症リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)臨床運用の試み
3. 学会等名 第117回日本精神神経学会学術総会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, M. Matsuo, Y. Sakaue, R. Sanada, T. Nakayama, S. Michikoshi, S. Ueba, N. Kurimoto, T. Hikida
2. 発表標題 Testing the clinical application of the Child Psychosis-Risk Screening System (CPSS)
3. 学会等名 EPA virtual 2021 (29th European Congress of Psychiatry) (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Y. Hamasaki, T. Nakayama, S. Michikoshi, T. Hikida
2. 発表標題 Risk factors for severity of social withdrawal in adolescence: Understanding hikikomori as a spectrum
3. 学会等名 EPA virtual 2021 (29th European Congress of Psychiatry) (国際学会) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 濱崎 由紀子、松尾 雅博、阪上 由子、眞田陸、中山 貴夫、道越 秀吾、上羽 智子、栗本 直樹、疋田 貴俊
2. 発表標題 統合失調症の児童期サブクリニカル特性 スクリーニング開発の試み
3. 学会等名 第40回精神科診断学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 濱崎由紀子、松尾雅博、阪上由子、眞田陸、中山貴夫、道越秀吾、上羽智子、栗本直樹
2. 発表標題 精神病リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)臨床運用の試み
3. 学会等名 第33回日本総合病院精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱崎 由紀子、松尾 雅博、阪上 由子、眞田 陸
2. 発表標題 子どもの精神病リスク早期スクリーニング・システム(CPSS)運用の試み
3. 学会等名 第61回日本児童青年精神医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 濱崎由紀子
2. 発表標題 Prodrpmeの発露 芸術と精神病理の交差する地点
3. 学会等名 日本精神病理学会第43回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Yukiko Hamasaki, Takatishi Hikida, Toshiya Murai
2. 発表標題 The combination pattern of the subclinical characteristics in schizophrenia childhood
3. 学会等名 第14回日本統合失調症学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 濱崎由紀子
2. 発表標題 芸術とProdromeの発露について - 坂口安吾の他者体験から
3. 学会等名 第66回日本病跡学会総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Y.Hamasaki, T.Nakayama, T.Hikida
2. 発表標題 Childhood subcrinical characteristics in schizophrenia-Toward the early screening for the risk of schizophrenia.
3. 学会等名 The 26th EPA European Congress of Psychiatry (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukiko HAMASAKI, Takao Nakayama, Takatoshi Hikida, Toshiya Murai
2. 発表標題 The early screening for the risk of schizophrenia in childhood
3. 学会等名 IEPA 11th International Conference (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yukiko Hamasaki, Takatishi Hikida, Toshiya Murai
2. 発表標題 The combination pattern of the subclinical characteristics in schizophrenia childhood
3. 学会等名 第14回日本統合失調症学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔出願〕 計1件

産業財産権の名称 子供の精神病リスク早期スクリーニングシステム	発明者 濱崎由紀子、中山貴夫	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、PCT/JP2018/043409	出願年 2018年	国内・外国の別 外国

〔取得〕 計1件

産業財産権の名称 子供の精神病リスク早期スクリーニングシステム	発明者 濱崎由紀子、中山貴夫	権利者 同左
産業財産権の種類、番号 特許、6466548	取得年 2019年	国内・外国の別 国内

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	阪上 由子 (Sakaue Yuko) (00437170)	滋賀医科大学・医学部・特任准教授 (14202)	
研究分担者	松尾 雅博 (Matsuo Masahiro) (70456838)	滋賀医科大学・医学部・非常勤講師 (14202)	
研究分担者	中山 貴夫 (Nakayama Takao) (00379158)	京都女子大学・現代社会学部・教授 (34305)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	道越 秀吾 (Michikoshi Shugo) (60572229)	京都女子大学・データサイエンス学部・准教授 (34305)	
研究分担者	眞田 陸 (Sanada Riku) (90647710)	滋賀医科大学・医学部・助教 (14202)	
研究分担者	大平 雅子 (Ohira Masako) (40616190)	滋賀大学・教育学系・教授 (14201)	
研究分担者	T A J A N N I C O L A S (Tajan Nicolas) (40751277)	京都大学・人間・環境学研究科・特定准教授 (14301)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	栗本 直樹 (Kurimoto Naoki) (20567078)	滋賀医科大学・医学部・非常勤講師 (14202)	
連携研究者	村井 俊哉 (Murai Toshiya) (30335286)	京都大学・医学研究科・教授 (14301)	
連携研究者	疋田 貴俊 (Hikida Takatoshi) (70421378)	大阪大学・たんぱく質研究所・教授 (14401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
フランス	EPS Erasme	Universite Paris Cite		